

「(浙江大学スプリングスクール) 参加報告書」

京都大学経済学部1年 (長町悠平)

留学前の自分の考えは、留学しているときに語学力を身に付けたらいいというもので、日本にいる時は留学の基準を満たす点数を取れるレベルでよいと考えていました。しかし実際に中国に行って、語学の授業を受けているときや、クラスメートと話そうとすると、その認識は甘いと気づかされました。授業の内容自体はレベルにあったものですが、話すスピードが速くてついていくのに必死でしたし、自分の語学力の無さにより、深くコミュニケーションを取るのが難しいと痛感したのです。もし長期留学に行ってあまり話せなかったら、友達作りや日々の生活に苦労するに違いないので、日本にいるうちにコミュニケーションがとれるぐらいの語学力は身に付けていくべきだと感じました。今回のプログラムにおける授業は、二週間弱しかなかったので、語学力そのものが飛躍的に上がったとは思えませんが、このように現地で言葉の壁を痛感することで、語学力をあげなければならないという意識は非常に高まりました。

私にとって今回が初めての海外だったので、直接海外を自分の目で見るのができたのはよかったです。中国人はよくしゃべる人が多いとか、中国の交通がものすごい(歩行者優先という概念はなかったし、タクシーの運転は驚くほど雑であった)ことは実際に行ってみないとわかりません。このような気づきを他の国でも得てみたいと感じたので、ほかのプログラム、もしくは自分自身で行ってみようと考えようになりました。

今回のプログラムは語学学習だけでなく、現地の中国人学生との交流や、自由行動の日に小旅行をしたりすることもでき、本当に充実した密度の濃いものでした。ただ、交流した中国人学生のほとんどが、日本語が上手だったため、その日本語に甘えてしまい、中国語を使えなかった部分もありました。日本語が話せない学生とも交流できるようになるには、もっと中国語を勉強して積極的に喋りかけなければならないと感じました。

今後の進路としては、留学したいという思いがより強くなったので、中国あるいは英語圏の国に留学しようと考えています。今までうっすらと留学したいと考えている程度だったのが、今回のプログラムにおいて留学生活の一部分を体験することができ、今後の長期留学のビジョンが鮮明に描けるようになったと感じています。その留学生生活を成功させるためにも、もっともっと語学に対する意識を高めて、努力していきたいです。

最後になりましたが、今回のプログラムに対して授業料や航空機代などの金銭的支援だけでなく、情報提供や事前の語学研修などをしていただき本当に感謝しています。また、一緒にプログラムに参加した他の8人の方や、現地でお世話になった方々にも感謝の気持ちでいっぱいです。